

石垣牛流通協議会設立総会①植村光一郎氏が会長に就任



日本最南端の銘柄牛「石垣牛」の振興と向上を図り、ブランド保持、高揚および全国へ消費拡大を促進することを目的に、石垣牛流通協議会の設立総会が4日、東京都千代田区の都道府県会館で開催された。総会は新型コロナウイルス感染症対策に万全を期し、50人の参加者に対してソーシャルディスタンスを保つために160人収容の会場で行われ、参加者は記念撮影時を除いてマスク、フェイスシールドを着用し、消毒を徹底。第1部では発起人総会、第2部では令和3年度総会を開催し、石垣牛の流通・販売などの検討および実施や積極的な認知活動の実施などの事業計画、運営役員選任、チェックオフ制度導入など全議案が承認された。同協議会の運営は業種代表の理事会(流通事業者)によって行われる。会員は高級百貨店、専門店、高級量販店、通信販売事業者、ホテル・旅館業、外食事業者、食肉卸売業、食肉処理事業者、顧問・アドバイザーの各代表者。会長には食肉卸売業を代表し、㈱ニイチク取締役の植村光一郎氏が就任した。

発起人を代表してあいさつしたニイチクの山田彰男社長は「食肉業界はこれまでBSE、O157、口蹄疫、東日本大震災原発事故などがあり、現在はコロナによる自粛経済の荒波の中で経営のかじ取りが求められている。こうした中でいつも感じるのは、生産から消費者に届く物流は一方通行が多く、情報共有が希薄だということ。これは川上の生産者にとって重い負担だ」と指摘。「石垣牛の生産維持、増頭のために流通機構を構築し、販売者と連携をとり、肥育部会にフィードバックしていきたい」と述べた。

続いて来賓あいさつとなり、石垣市の中山義隆市長(代読)、沖縄県の長嶺豊農林水産部長(代読)、日本畜産物輸出促進協議会の木下良智理事長、さらに沖縄県農業協同組合の前田典男代表理事・専務がそれぞれ祝辞を述べた。第1部の最後では石垣牛銘柄推進委員会の石垣信治会長(JAおきなわ八重山地区本部長)があいさつ。また、石垣牛肥育部会の仲大盛吉幸部会長が石垣牛の概要について、植村会長が協議会設立に至るまでの経緯や取り組みを紹介した(詳細は次号)。同協議会の役員体制は次のとおり。

【会長】植村光一郎(㈱ニイチク取締役) 【副会長】笹英典(㈱エムアイフードスタイル執行役員商品統括本部長) 【理事】高岡哲郎(㈱人形町今半代表取締役副社長)▽市川博史(㈱京王プラザホテル常務取締役総料理長)▽秋山康輔(ジュピターショップチャンネル㈱マーチャンダイジング本部長)▽長崎利昭(㈱弘城代表取締役)▽池田章一(㈱ミートコンパニオン東京事業所課長代理) 【事務局長】木村明俊(㈱ニイチク常務取締役) 【事務局】山田裕久(㈱ニイチク営業量販課課長)▽野崎文孝(㈱ニイチク経理総務課課長)